二〇二〇年四月二〇日（参加者一六名）

落花また落花や我に句敵に　うつぎ
落椿ダム湖に秘めし物語　うつぎ
塩田の跡に遍路の鈴進む　素秀
ランタンとせる竹筒に花の屑　せいじ
飛花落花真つ只中に我が余生　よし子
畦塗つて柏手を打つ老農夫　かかし
朝桜樹間にまみゆ観世音　ぽんこ
遍路笠二つ舳先に渡し舟　素秀
里山の裾あかるうす今年竹　菜々
野良猫の釣り人に媚ぶ春の昼　わかば
鼻息で花屑飛ばすレトリバー　なつき
磯遊びかかるしぶきも何のその　こすもす
一陣の風に騒然つつじ山　宏虎
わが町の路地をめぐりて春惜しむ　菜々
花吹雪湖底の村の望郷碑　よし子
野路愉したんぽぽの黄の連なりて　よし子
雨に敷く歩道の落花華やぎぬ　はく子
自家製てふ蕗味噌試食道の駅　かかし
昼暗き裏参道の落椿　せいじ
島陰にくぐもる汽笛沖長閑　もとこ
花吹雪スローシャッターで見るごとし　よう子
園占むる十万本のチューリップ　わかば
汐風に松の香混じる遍路道　素秀
おおどかに鳶の輪を描く春の空　わかば
声低く懺悔聞こゆる遍路宿　素秀
尻振りて競歩の夫婦たんぽぽ黄　うつぎ

吟行句会みのる選

二〇二〇年四月二〇日（参加者一六名）